

～とよた森づくり委員会からのメッセージ～

2005年の広域合併により、豊田市は、市域の約7割を占める広大な森林を持つ都市に生まれ変わりました。豊かな森林は、土砂崩れなどの災害から人々の生活を守るとともに、そこから供給される木材や豊富な水は、人々の生活や多様な産業を支えてきました。また、森林から得られる四季折々の恵みは、山村地域に独自の文化をも育んできました。しかし、薪から化石燃料への転換など生活様式の変化や、昭和30年代を中心に国策として植林が推進された結果、豊田市の森林の約5割がヒノキやスギの人工林となりました。

矢作川流域の山村地域では、これまで森林整備に努力してきましたが、外国産材の輸入増加、山村地域の過疎化などの社会情勢の変化等により、近年になって適正な管理が行なわれていない人工林が増加しました。手入れの行き届かないヒノキやスギの林をそのまま放置し続けると、木材を生産する機能だけでなく、土砂流出防止や水源かん養などの公益的機能が損なわれ、災害の発生する危険性が高まります。

こうした厳しい現状を打破するためには、長期的な視野に立って、最新の科学的な知見に基づいた計画的な施策の実施により、森林の持つ多面的な機能を十分に発揮させるような森づくりが重要となります。適正に管理された人工林は、多様な生態系を育むとともに、再生可能な資源となり、都市と農山村の共生にも寄与することができます。

私たちは、豊田市民が、森づくりは百年の計であることを認識し、市内の森林にかかわる全ての人々が一体となって、間伐を主とした森林整備の重点的な実施と、木材利用の促進等により、人工林を速やかに整備するとともに、自然豊かな天然林を維持することにより、環境、資源、文化ともに豊かな森林を育て、次世代に引き継ぐことを願い、ここに豊田市森づくり構想を提案します。

2006年11月1日

とよた森づくり委員会



＜東海豪雨時に発生した、湖面を埋め尽くす大量の流木＞



＜森づくり委員会の現場視察＞